

第4部

戸田市 まち・ひと・しごと創生総合戦略

第1章 第1期戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要	182
1 人口の将来展望と戦略体系	182
2 取り組み内容の進捗状況	184
3 取り組み後の人口の動向	186
4 今後の方向性	189
第2章 第2期戸田市総合戦略	190
1 第2期戸田市総合戦略の基本的な考え方	190
2 人口の将来展望(総人口の推計)	192
3 第2期戸田市総合戦略の体系	196
4 各基本目標における施策	200

第1章 第1期戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

1 人口の将来展望と戦略体系

急速な人口減少・高齢化に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくための「まち・ひと・しごと創生法」が平成26年(2014年)に制定され、国をあげて地方創生への取り組みが始まりました。

戸田市においても、戸田市に見合った人口展望の実現、社会情勢を捉えた地域経済の発展及びまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指し、将来にわたって活力ある豊かな地域社会を持続させていくために、「戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「第1期戸田市総合戦略」という。)を平成27年(2015年)に策定しました。第1期戸田市総合戦略では、「人口の将来展望」の実現に向けて、目指す姿を「まちづくりの主体がそれぞれの役割に応じて強みを活かすとともに、相互に連携し、『住みたい住み続けたいまち戸田』というブランドを確立する」とし、4つの基本目標とそれぞれの施策を定めています。なお、第2期戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「第2期戸田市総合戦略」という。)を戸田市第5次総合振興計画(以下、「本計画」という。)に統合し、一体的に策定するため、第1期戸田市総合戦略の計画期間を令和2年度(2020年度)まで1年延伸しています。

また、第1期戸田市総合戦略の策定に当たっては、効果的な施策を企画立案するための基礎資料として「戸田市まち・ひと・しごと創生総合に係る人口ビジョン」(以下、「戸田市人口ビジョン」という。)を策定し、令和42年(2060年)までの「人口の将来展望」を示しています。

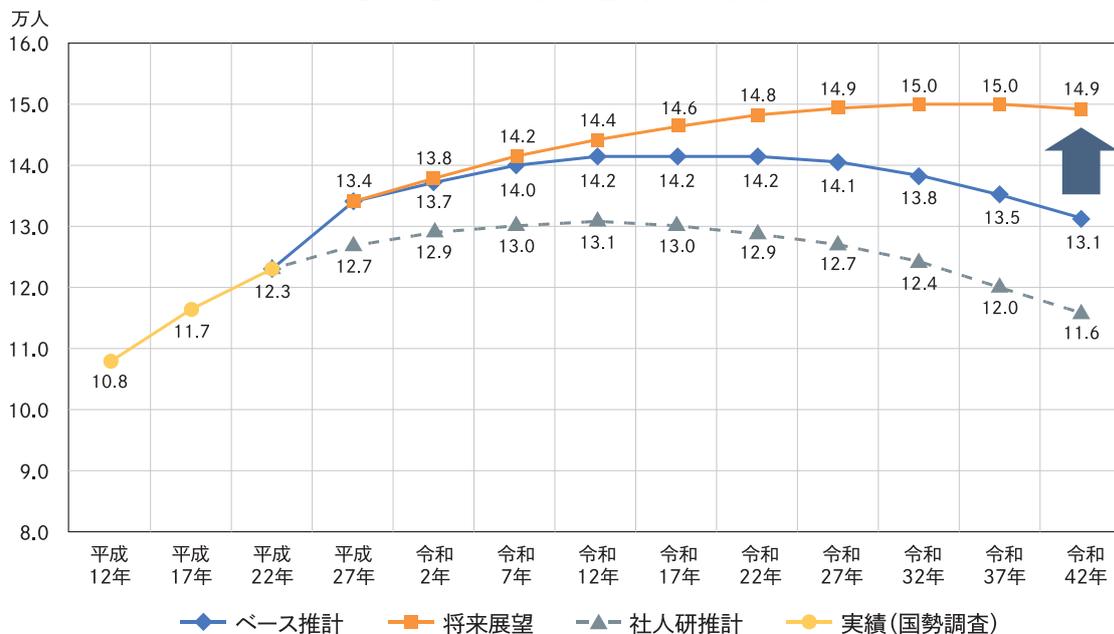
(1)人口の将来展望

戸田市人口ビジョンにおいては、戸田市における人口動向や将来人口推計を分析し、将来に向け、以下の基本的視点と4つの方向性を定めています。

基本的視点		若い世代が戸田市での「暮らし」や「人生」に満足できるようにすることで、この地に根付く人を増やす
方向性	①	若い世代(特に子育て世代・住宅購入世代)の転出を抑制する
	②	「この地で結婚・出産・子育てしたい」と思われるまちをつくる
	③	市民に仕事と働きやすさを提供し、個々人にとっての理想の働き方を実現する
	④	将来の人口構造変化に柔軟に対応できる、まちの基礎・基盤をつくる

また、人口の将来展望として、長期的視点で人口規模の維持を図ること、高齢化・少子化による人口構造の急激な変化を抑制することを掲げています。具体的には、施策展開の効果により、総人口は令和22年(2040年)に14.8万人、令和42年(2060年)に14.9万人を維持、高齢化と少子化の進行を緩和し、人口構造の急激な変化を抑制するとしています。

【図表1】人口の将来展望(総人口の推計)



(2) 基本目標と施策

基本目標	施策
I 新しい人の流れをつくる	1 ライフステージに応じた住み替え支援
	2 住みやすいと感じられる住環境の創出
II 若い世代の出産・子育ての希望をかなえる	1 子育てと仕事の両立支援
	2 出産、子育てへの経済的支援
	3 出産・子育てへの不安解消
	4 学校・教育環境の充実
III 安定した雇用を創出する	1 市民・市内雇用の促進
	2 新たな産業の創出
	3 市内企業の成長支援
IV 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する	1 コミュニティの活性化
	2 地域人材の育成
	3 高齢者の活躍推進
	4 公共施設マネジメントの推進

2 取り組み内容の進捗状況

(1) 基本目標Ⅰ 新しい人の流れをつくる

～若い世代(特に子育て世代・住宅購入世代)の転出を抑制する～

【基本的方向】

若い世代(ファミリー層)のニーズに合った住宅・住環境を提供することで、「住みたいまち」としての魅力を高め、ライフステージに応じた理想的な住まい方を実現できるようにするとともに、「住み続けたいまち」としての魅力を高める多様な取り組みにより、戸田市に根を下ろす人を増やします。

数値目標			
項目	当初値：平成25年(2013年)		目標値：令和2年(2020年)
転出数 (直近5か年平均)	8,965人		8,407人
実績(直近5か年平均)			
平成27年(2015年)	平成28年(2016年)	平成29年(2017年)	平成30年(2018年)
8,813人	8,860人	8,961人	9,183人

(2) 基本目標Ⅱ 若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

～「この地で出産・子育てしたい」と思われるまちをつくる～

【基本的方向】

若い世代の出産、子育て、仕事の人生設計に多様な選択肢を与えるとともに、出産や子育ての妨げとなっているものを取り除く支援を行うことで、出生数を増やします。また、質の高い子育て環境・教育環境を提供し、名実ともに「子育てのまち(子どもにとってよいまち)」を目指し、若い世代の定住化を図ります。

数値目標			
項目	当初値：平成25年(2013年)		目標値：令和2年(2020年)
出生数 (直近5か年平均)	1,454人		1,509人
実績(直近5か年平均)			
平成27年(2015年)	平成28年(2016年)	平成29年(2017年)	平成30年(2018年)
1,514人	1,541人	1,543人	1,520人

(3)基本目標Ⅲ 安定した雇用を創出する

～市民に仕事と働きやすさを提供するとともに、企業の成長で働き口を増やす～

【基本的方向】

潜在的な働き手である女性や高齢者などの働く意欲の高い人への就職を支援するとともに、若者などの雇用の定着を促し市内における雇用の拡大を図ります。また、市内企業の魅力の発信や支援を充実させることで市内企業の成長を促すとともに、戸田市の立地環境などの強みを活かした新しい産業の創出を図ることで働き口の拡大を図っていきます。

数値目標		
項目	当初値：平成24年(2012年)	目標値：令和2年(2020年)
市内従業者数 (経済センサス調査)	60,176人	61,700人

実績	
平成26年(2014年)	平成28年(2016年)
64,138人	64,913人

(4)基本目標Ⅳ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する

～将来の人口構造の変化に柔軟に対応できる、まちの基礎・基盤をつくる～

【基本的方向】

多世代や新旧住民など多様な主体が集い活動できる拠点を整備し、活動を通じて交流を深められるようにします。また、地域人材の育成を進め、高齢者などが次世代を育成するとともに、自身が健康に過ごすことで、将来にわたり、戸田市らしい活気あるまちが維持できるような基礎をつくっていきます。

数値目標		
項目	当初値：平成26年(2014年)	目標値：令和2年(2020年)
幸せだと実感している市民の割合(市民意識調査)	79.4%	85.0%

実績	
平成30年(2018年)	
78.2%	

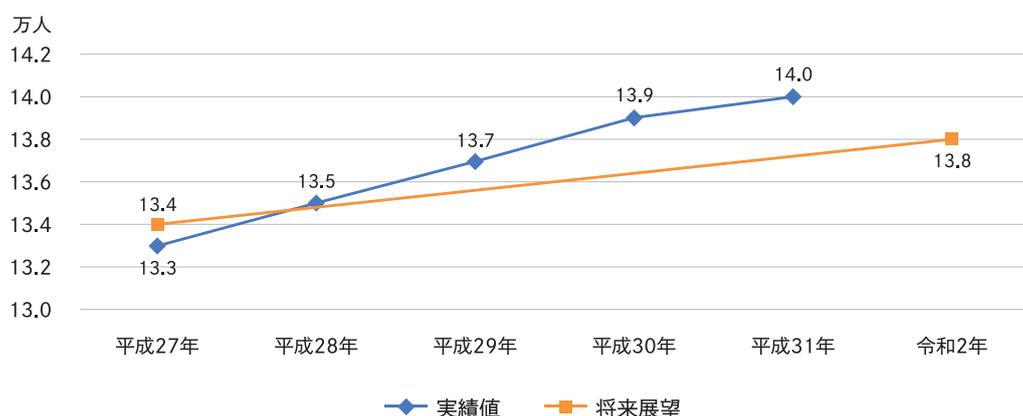
3 取り組み後の人口の動向

(1) 総人口の推移

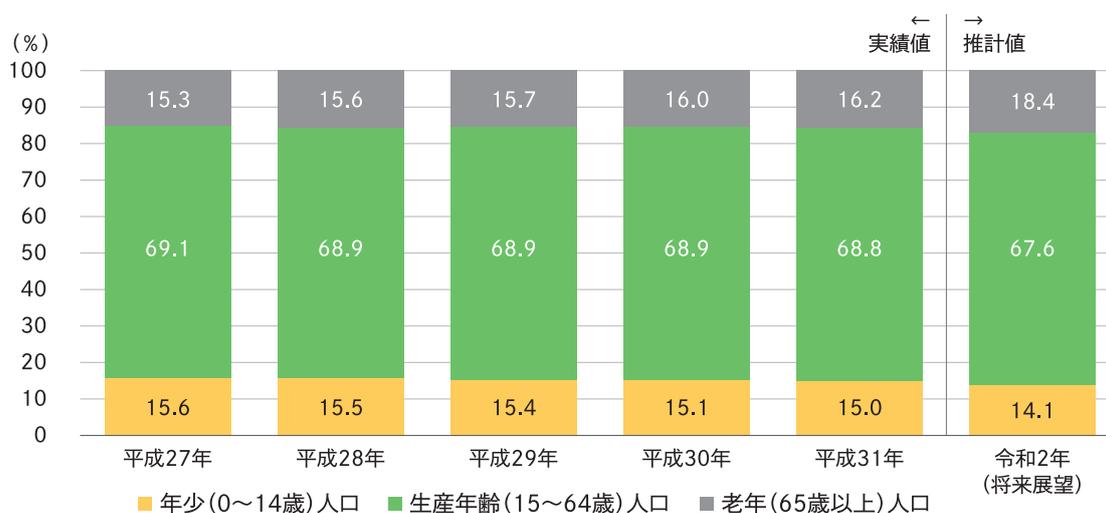
住民基本台帳から第1期戸田市総合戦略策定後の戸田市の総人口をみると、平成30年(2018年)には13.9万人(1月1日現在、本章のみ以下同じ)に達し、平成27年(2015年)に策定した戸田市人口ビジョンに掲げた令和2年(2020年)の将来展望13.8万人を超えています。

また、年齢3区分別人口構成比の推移をみると、年少(0～14歳)人口割合は、平成27年(2015年)の15.6%から徐々に減少し、平成31年(2019年)には15.0%となっています。一方で、老年(65歳以上)人口割合は平成27年(2015年)の15.3%から徐々に増加し、平成31年(2019年)には16.2%となり、少子高齢化は緩やかに進行しています。

【図表2】 総人口の推移
(実績値と平成27年(2015年)策定戸田市人口ビジョンにおける将来展望)



【図表3】 年齢3区分別人口構成比の推移
(実績値と平成27年(2015年)策定戸田市人口ビジョンにおける将来展望)

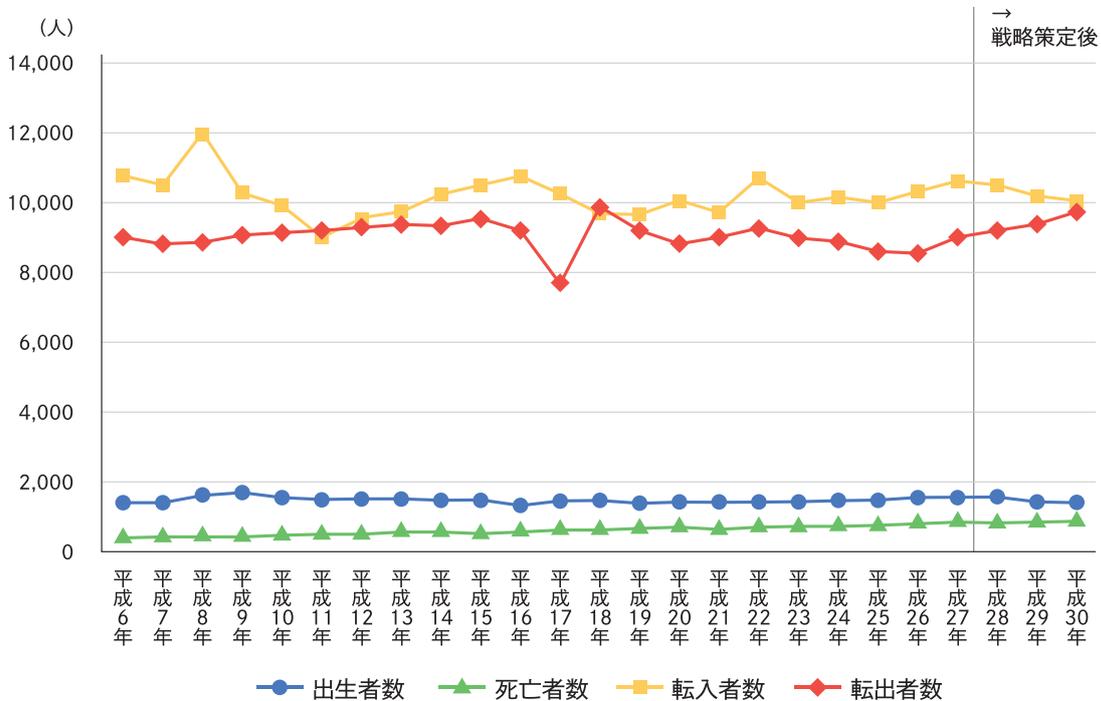


(2) 出生・死亡、転入・転出の推移

出生は長期的にみて横ばい傾向にあり、概ね1,500人前後で推移していますが、平成27年(2015年)以降は減少傾向にあり、平成30年(2018年)には1,420人となっています。一方、死亡は緩やかながら増加傾向にあり、平成6年(1994年)には400人程度であったものが、平成30年(2018年)には900人近くに達しています。

転入・転出は年次によりばらつきはあるものの、転入は概ね10,000人前後で推移しています。一方、転出は概ね9,000人前後の水準で推移していたものが平成27年(2015年)以降は増加傾向にあり、平成30年(2018年)には9,730人となり、社会増は300人台に留まっています。

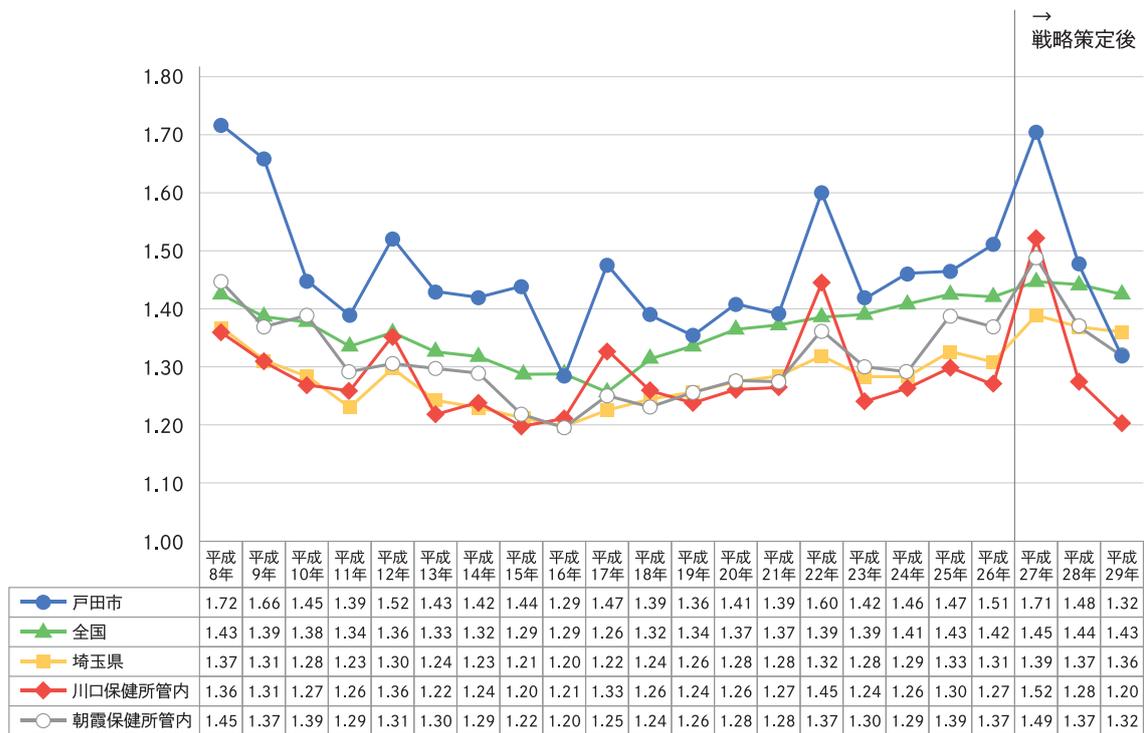
【図表4】 出生・死亡数、転入・転出数の推移(実績値)



(3) 合計特殊出生率の推移

埼玉県の保健統計年報によると、戸田市の合計特殊出生率は、平成8年(1996年)から平成28年(2016年)のうち、平成8年(1996年)と平成27年(2015年)の2度1.7を超えるなど、全国、埼玉県、川口保健所、朝霞保健所が管轄する自治体の平均と比べても高い水準にあります。しかしながら、平成29年(2017年)は全国及び埼玉県の平均を下回り、平成16年(2004年)以来の低水準1.32に留まっています。

【図表5】合計特殊出生率の推移(実績値)



4 今後の方向性

(1) 第1期戸田市総合戦略からみた方向性

前述のとおり、戸田市の総人口は戸田市人口ビジョンに掲げた人口の将来展望（総人口の推計）を上回っています。しかし、4つの基本目標として掲げた目標の進捗状況をみると、基本目標Ⅱ及びⅢについては達成している状況ですが、基本目標Ⅰ及びⅣについては未達成の状況です。そのため、目指す姿「まちづくりの主体がそれぞれの役割に応じて強みを活かすとともに、相互に連携し、『住みたい住み続けたいまち戸田』というブランドを確立する」ことには至っていません。今後はこれまでの取り組みを継続することに加え、新たな視点を取り入れることが求められます。

また、第2期戸田市総合戦略に係る人口の将来展望（総人口の推計）についても、第2期戸田市総合戦略を本計画に統合することや、戸田市の総人口が人口の将来展望（総人口の推計）を既に上回っていることを踏まえると、直近の人口動態などを考慮し改めて推計する必要があります。

このことから、第2期戸田市総合戦略の策定に当たっては、戸田市人口ビジョンの人口の将来展望（総人口の推計）を再推計するとともに、第1期戸田市総合戦略をベースとしながら、その進捗状況を踏まえた取り組みの改善を図ることとします。

(2) 国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略からみた方向性

国は、将来にわたって活力ある「日本社会」を維持するために、平成26年（2014年）に策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に続き、令和元年（2019年）には第2期の長期ビジョンと総合戦略を策定し、地方創生について「継続は力なり」を基本姿勢に、取り組みをより一層充実・強化しようとしています。国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「国の第2期総合戦略」という。）では、国の第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げた4つの基本目標（しごと、ひと、結婚・出産・子育て、まち）に加え、「多様な人材の活躍を推進する」「新しい時代の流れを力にする」（Society5.0、SDGs）という2つの横断的な目標が掲げられました。

第2期戸田市総合戦略の策定に当たっては、国が示した新たな視点を戸田市の実情に合わせて取り入れていくこととします。また、本計画では、基本計画に示した各施策とSDGsの関連性を明らかにし、SDGsの達成に貢献することとしています。そのため、第2期戸田市総合戦略においても、SDGsとの関連性を念頭に置きながら施策を進めていきます。

第2章 第2期戸田市総合戦略

1 第2期戸田市総合戦略の基本的な考え方

(1)目的

戸田市に見合った人口展望の実現、社会情勢を捉えた地域経済の発展及びまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指し、将来にわたって活力ある豊かな地域社会を持続させていくことを目的とした第1期戸田市総合戦略が、令和2年度(2020年度)に計画期間満了となります。そのため、これまでの取り組みの成果・課題及び国の第2期総合戦略を勘案し、戸田市人口ビジョンの新たな将来展望に基づいた第2期戸田市総合戦略を策定します。

(2)位置付け

策定に当たっては、まち・ひと・しごと創生法に基づくとともに、国の第2期総合戦略を勘案しつつ、戸田市人口ビジョンに掲げる新たな将来展望の実現に向けた考え方や目標、取り組みなどをまとめました。

なお、第2期戸田市総合戦略は、市の最上位計画である本計画と一体的に策定し、その取り組みとの整合性を図るとともに、まち・ひと・しごとのに係る分野の取り組みを強化し、推進していくための戦略として位置付けます。

(3)計画期間

令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度)
<5か年計画>

(4)計画の進行管理

国の第2期総合戦略が示す各基本目標に基づき戸田市における基本目標を定め、当該基本目標の数値目標を設定するとともに、各基本目標を推進する施策ごとに重要業績評価指標(KPI)を設定し、その効果を客観的に測定できるようにします。

また、担当部局において取り組みの推進を図るとともに、KPIについては、原則として、本計画における施策、事務事業の指標を準用することとし、本計画と合わせて一体的な進行管理を行います。取り組み内容の検証に当たっては、戸田市外部評価委員会にて行います。

(5) 推進に当たって

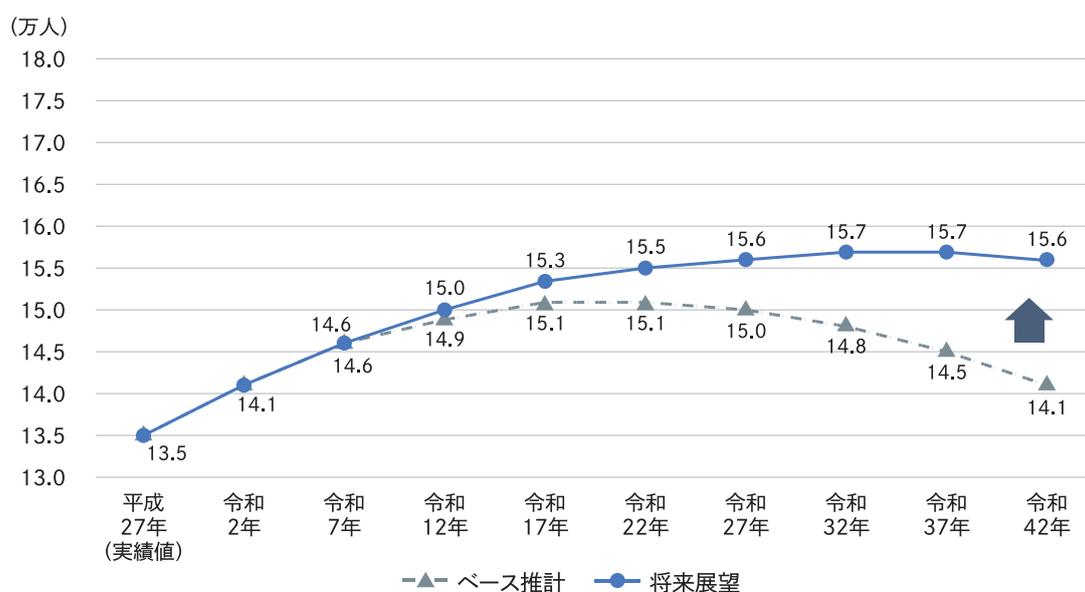
本計画と一体的に策定することから、本計画の基本目標及び計画推進のための考え方を基本として、戸田市に関わる全てのまちづくりの主体がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に連携し合いながら推進していくものとします。また、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念のもと施策を推進していきます。

2 人口の将来展望(総人口の推計)

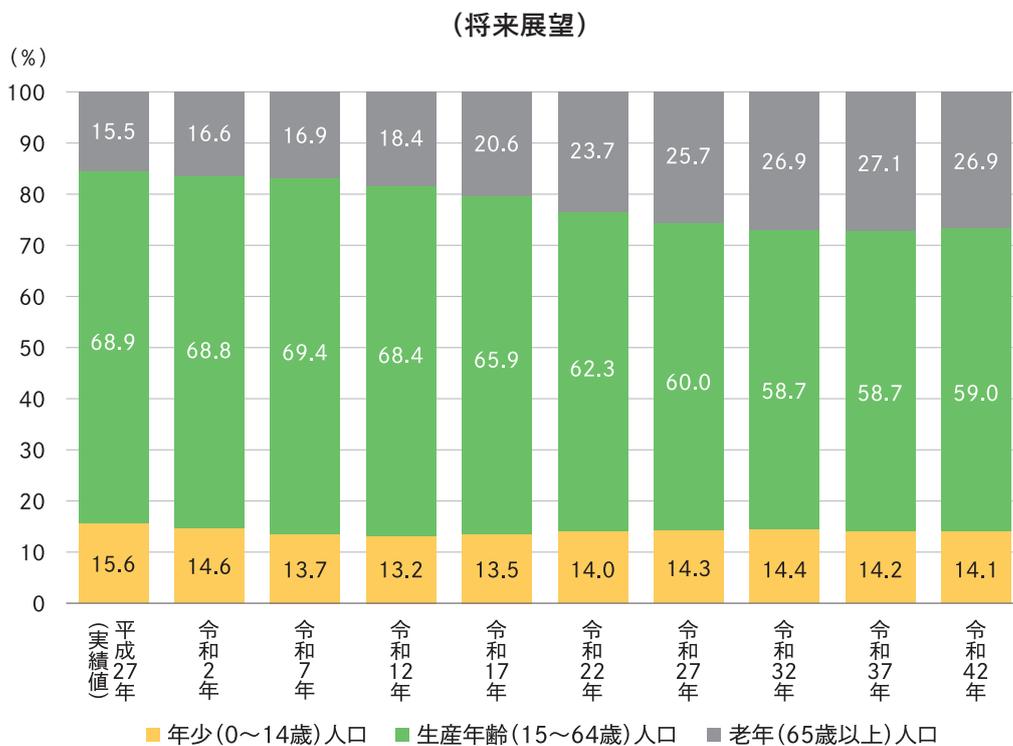
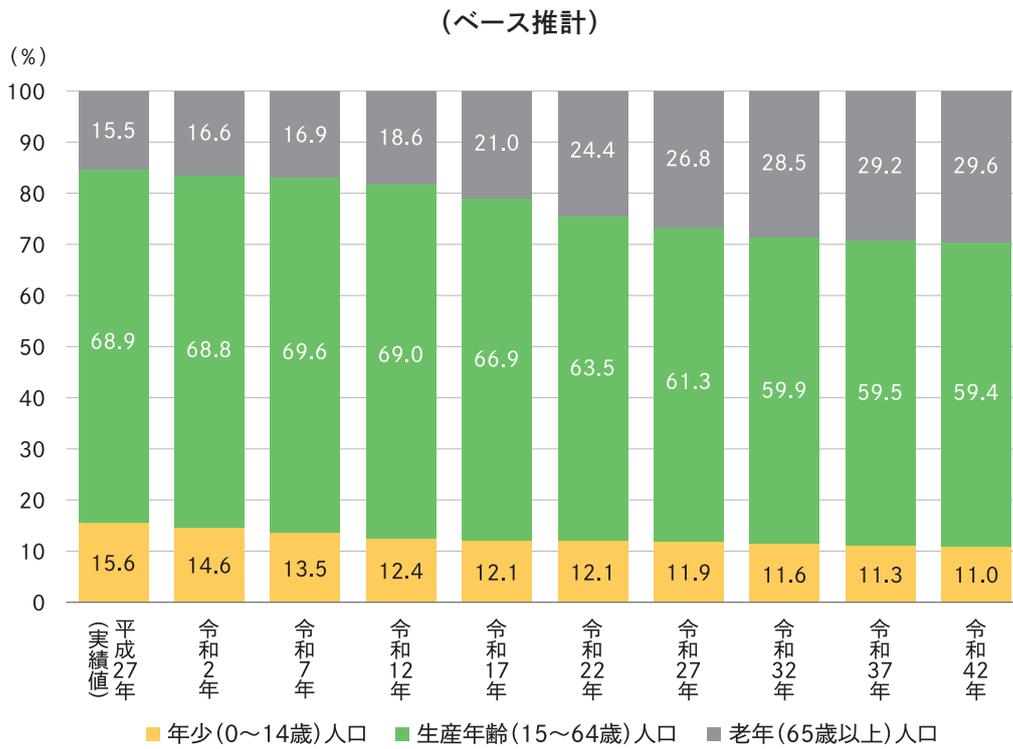
戸田市人口ビジョンにおける人口の将来展望(総人口の推計)については、第1期戸田市総合戦略のベース推計に、直近(令和元年(2019年)時点)の住民基本台帳人口、合計特殊出生率、純移動率を踏まえ、改めて戸田市における今後のベースとなる人口の推計を行いました。そして、戸田市人口ビジョンに定めた将来の方向に基づき第2期戸田市総合戦略を策定し、第2期戸田市総合戦略の施策展開の効果を踏まえた人口の将来展望(総人口の推計)を行いました。

- ◎第2期戸田市総合戦略の施策展開の効果により、総人口は令和22年(2040年)に15.5万人、令和42年(2060年)に15.6万人を維持します
- ◎高齢化と少子化の進行を緩和し、人口構成の急激なバランス変化を抑制します

【図表6】人口の将来展望(総人口の推計)



【図表7】将来展望の年齢3区分別割合の推移(ベース推計との比較)



【将来展望における仮定値】

①出生に関する仮定

- 合計特殊出生率が、ベース推計よりも上昇することを想定します
→統計の直近2カ年(平成28年・29年(2016年・2017年))の平均値1.40から等間隔で上昇、令和22年(2040年)に1.80に達し、以降は固定します
(1.80は、国の長期ビジョンにおいて、若い世代の結婚・子育ての希望が実現した場合の水準です)

②移動に関する仮定

(10代、20代について)

- ベース推計では、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づき、転入超過が縮小していくと仮定していますが、転入超過の縮小が仮定ほど進まないことを想定し、この転入超過の縮小幅を圧縮します
→転入率の減少幅を、令和2年(2020年)を基準として5%抑制、令和27年(2045年)以降は一定

(30代、40代及び0～9歳について)

- ベース推計では、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づき、転出超過が続くと仮定していますが、転出超過が仮定より抑制されることを想定し、この転出超過の割合を減少します
→転出超過を5%減少、令和27年(2045年)以降は一定

(50代以降について)

- ベース推計どおり

基本目標

計画推進のために

戸田市国土強靱化地域計画

戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

3 第2期戸田市総合戦略の体系

前述の第2期戸田市総合戦略の策定の方向性のとおり、第1期戸田市総合戦略をベースとしながら、進捗状況を踏まえて施策体系を見直し、以下のとおり第2期戸田市総合戦略が目指す姿、基本目標及び施策体系を定めます。

(1) 目指す姿

まちづくりの主体がそれぞれの役割に応じて強みを活かすとともに、相互に連携し、「住みたいまち・住み続けたいまち」という戸田市のブランドを確立する

(2) 基本目標と施策

基本目標	施策	対応する本計画の施策・考え方
Ⅰ 新しい人の 流れをつくる	1.住みやすいと感じられる 生活環境の創出	16 地域防災力・危機管理体制の充実・強化
		17 防犯体制の強化
		19 浸水対策の推進
		20 安全な道路環境の整備・推進
		21 快適で秩序ある美しい市街地の形成
		22 安心して生活できる住環境の充実
		23 上下水道事業の効率的な運営・施設の充実
		24 公共交通が利用しやすい環境の整備・推進
		25 自然に親しむ空間の整備・推進
		30 産業振興の推進
Ⅱ 出産・子育ての 希望をかなえる	2.魅力を活かしたシティ プロモーションの展開	30 産業振興の推進
		31 地域資源を活用した観光振興の推進
		考え方 ②情報共有・発信の強化
Ⅱ 出産・子育ての 希望をかなえる	1.子育てと仕事の両立支援	1 子育て支援の充実
		2 乳幼児期の保育・教育の充実
		3 児童・青少年の育成環境の充実
		9 健康づくり支援の充実
		29 多様な働き方への支援・充実
	2.出産・子育てへの経済的 支援	1 子育て支援の充実
		2 乳幼児期の保育・教育の充実
		9 健康づくり支援の充実
		13 生活困窮者支援の充実

II 出産・子育ての 希望をかなえる	3.出産・子育てへの不安 解消	1 子育て支援の充実
		5 生涯学習活動の推進
		8 地域医療体制の強化
		9 健康づくり支援の充実
	4.学校・教育環境の充実	3 児童・青少年の育成環境の充実
		4 世界で活躍できる人間の育成
III 安定した雇用を 創出する	1.市民・市内雇用の促進	2 乳幼児期の保育・教育の充実
		13 生活困窮者支援の充実
		14 障がい福祉環境の整備・充実
		29 多様な働き方への支援・充実
	2.企業の成長支援	27 生活環境の保全
		29 多様な働き方への支援・充実
		30 産業振興の推進
		31 地域資源を活用した観光振興の推進
IV 生涯にわたって みんなが活躍でき る地域をつくる	1.コミュニティの活性化	10 地域福祉の推進
		16 地域防災力・危機管理体制の充実・強化
		32 市民活動の活性化と地域交流の促進
		考え方 ②情報共有・発信の強化
	2.多様な地域人材の活躍・ 育成	5 生涯学習活動の推進
		9 健康づくり支援の充実
		11 高齢者福祉環境の整備・充実
		32 市民活動の活性化と地域交流の促進
		考え方 ①協働によるまちづくり
		考え方 ③質の高い行財政運営の推進

(3)総合戦略と本計画の相関図

第2期戸田市総合戦略と本計画の相関図は、次のページの表のとおりです。

【図表8】総合戦略の施策と第5次総合振興計画の施策の相関図

施策 番号	施策名	I 新しい人の流れをつくる		II 出産・子育ての 希望をかなえる
		1.住みやすいと 感じられる生活 環境の創出	2.魅力を活かした シティプロモー ションの展開	1.子育てと仕事 の両立支援
1	子育て支援の充実			●
2	乳幼児期の保育・教育の充実			●
3	児童・青少年の育成環境の充実			●
4	世界で活躍できる人間の育成			
5	生涯学習活動の推進			
6	芸術文化活動の推進			
7	スポーツ・レクリエーション活動の推進・充実			
8	地域医療体制の強化			
9	健康づくり支援の充実			
10	地域福祉の推進			
11	高齢者福祉環境の整備・充実			
12	国民健康保険・後期高齢者医療・国民年金の円滑な運営			
13	生活困窮者支援の充実			
14	障がい福祉環境の整備・充実			
15	消防・救急体制の強化			
16	地域防災力・危機管理体制の充実・強化	●		
17	防犯体制の強化	●		
18	市民相談機能と消費生活の充実			
19	浸水対策の推進	●		
20	安全な道路環境の整備・推進	●		
21	快適で秩序ある美しい市街地の形成	●		
22	安心して生活できる住環境の充実	●		
23	上下水道事業の効率的な運営・施設の充実	●		
24	公共交通が利用しやすい環境の整備・推進	●		
25	自然に親しむ空間の整備・推進	●		
26	魅力ある公園づくり			
27	生活環境の保全			
28	環境衛生の充実			
29	多様な働き方への支援・充実			●
30	産業振興の推進	●	●	
31	地域資源を活用した観光振興の推進		●	
32	市民活動の活性化と地域交流の促進			
考え方	①協働によるまちづくり			
考え方	②情報共有・発信の強化		●	
考え方	③質の高い行財政運営の推進			
考え方	④信頼される行政の実現			

4 各基本目標における施策

(1)基本目標I 新しい人の流れをつくる

【基本的方向】

第1期戸田市総合戦略では、若い世代(特にファミリー層)のニーズに合った住宅支援や住みやすいまちとしての戸田市のイメージアップを図ってきました。これにより戸田市に根を下ろす人を増やすこととしていましたが、転出者数は近年増加傾向にあります。

第2期戸田市総合戦略では、安全に住み続けられる生活環境を整えるとともに、様々な機会を通じたシティプロモーションの展開により、「住みたいまち」「住み続けたいまち」としての魅力を高め、戸田市に定住する人(定住人口)や関係する人(関係人口)を増やします。

数値目標		
項目	当初値	目標値
転出者数(直近5か年平均)	9,107人	8,323人
社会増数(直近5か年平均)	575人	759人

※当初値は、平成29年(2017年)及び平成30年(2018年)の2か年平均値

施策1 住みやすいと感じられる生活環境の創出

「住みたいまち」「住み続けたいまち」としての魅力を高めるためには、良好な生活環境づくりが重要です。良好な生活環境づくりのためには、日常生活における利便性や、治安や災害に対する安全性、まちの緑や水辺などの快適性などがポイントとなります。

平成30年度(2018年度)に実施した市民意識調査では、「利便」(買い物の便利さ、通勤・通学の便利さなど)、「快適」(緑などの自然環境など)については満足度が高く、高い評価を受けているものの、「安全」(防災や道路の安全性、子どもや高齢者の外出時の安全性など)については満足度が低く、課題を残しています。また、平成30年度(2018年度)に実施した人口移動実態調査では、戸田市からの転出のきっかけとなった主な理由は「転勤」「住宅事情」「結婚」となっています。節目となるライフイベントが発生した際、利便性やより広い持ち家を求めて、戸田市から転出していくものと思われる。転出の際、「親族の居住地から近い」地域を選択する人も目立ちます。

このことから、生活利便性の更なる向上を図るとともに、市民が安全に暮らせる環境づくりに力を入れます。また、街中の憩いの空間づくりなど、市民が快適に暮らせる環境づくりに努め、住みやすいまちとしての戸田市の魅力を高めます。

施策2 魅力を活かしたシティプロモーションの展開

戸田市の魅力を知ってもらうためには、シティプロモーションの展開が重要となります。

住みやすいまちとしての戸田市のイメージアップやブランド力の向上のためには、戸田市が持つ魅力を広く市内外に発信していくことが重要です。魅力の発信のためには、市民と協力しながら地域資源を掘り起こし、様々な機会を通じてシティプロモーションを展開していくことが有効になります。

平成30年度(2018年度)に開催した協働会議からは、「戸田の魅力といえば水と緑、学校と教育、戸田の“人”、利便性、若さ、ボートのまちなどがあるが、うまく活用されておらず、あまり市民に知られていない」といった意見が出されました。上記のほかにも、市内産業や地域の歴史的背景に着目すれば、更なる魅力が発掘できるのではないか、といった意見もありました。

このことから、彩湖・道満グリーンパーク、戸田ボートコースなどの活用方策を検討するとともに、戸田市の水と緑、歴史・文化、産業、暮らしなどの魅力を広く市内外に発信することで、魅力を知る機会の提供を図るなど戦略的なシティプロモーション活動を展開します。また、シティプロモーション活動の展開は、市民と協力しながら様々な機会を通じて行います。

(2)基本目標II 出産・子育ての希望をかなえる

【基本的方向】

第1期戸田市総合戦略では、この地で出産・子育てをしたいと思われるような支援や子育て環境・教育環境を提供してきました。これにより出生数を増やすこととしていましたが、実績は横ばいとなっています。

第2期戸田市総合戦略では、引き続き出産・子育てといったライフイベントに際し、多様な選択肢の中から豊かな人生を歩みだしていけるよう、出産や子育ての妨げとなっているものを取り除く支援を行うことで、出生を増やします。また、質の高い子育て環境・教育環境を提供し、「子育てのまち(子どもにとってよいまち)」を目指し、定住促進を図ります。

数値目標		
項目	当初値	目標値
出生数(直近5か年平均)	1,322人	1,322人以上
合計特殊出生率	1.30	1.48

※当初値は、平成30年(2018年)実績値

施策1 子育てと仕事の両立支援

長期的な視点から戸田市の人口を維持していくためには、生まれてくる子どもの数(出生数)の維持・増加がポイントになります。

出生数の維持・増加のためには、出産や子育ての妨げとなっているものを取り除くための支援が重要になります。平成30年度(2018年度)に実施した市民意識調査では、「保育園など通常の預け先」については満足している人の割合が高い一方、「一時保育など臨時的な預け先」については満足している人の割合は低くなっています。また、「地域の人の声掛けや協力」についても満足している人の割合は低く、課題を残しています。

このことから、引き続き、子どもの預け先の確保とその質の維持・向上に向けた指導や支援、子どもの預かり時間の多様化など、子育てをしながら働くための支援を行うことで、働きながら出産、子育てができる環境を創出します。また、職場においては子育てをしながら働きやすい環境づくりを促すとともに、地域においては子どもを見守る環境づくりに努めます。

施策2 出産・子育てへの経済的支援

平成26年度(2014年度)に実施した「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」では、予定の子どもの数と理想の子どもの数がかい離している理由の一つとして「子育てや教育にはお金がかかる」という経済的な理由が多く挙げられていました。

また、平成30年度(2018年度)に実施した市民意識調査では、「児童手当やこども医療費助成など金銭的支援」について、満足している人の割合が約50%に留まっています。

このことから、令和元年(2019年)10月からスタートした幼児教育・保育の無償化といった国の施策に加え、出産・子育てを取り巻く経済的負担の軽減策を必要とする人に対して講じることで、出産したいと思う人が出産できる環境を整えます。

施策3 出産・子育てへの不安解消

平成30年度(2018年度)に実施した市民意識調査では、「子育てに関する不安や悩みを聞いてもらえる相談の場」に対する「満足」「やや満足」の割合は合計でも17.8%に留まっており、引き続き、出産・子育てへの不安解消に向けた取り組みの充実が求められます。

また、戸田市の出産時における母親の年齢別の割合を見ると、15～34歳の出産は平成19年(2007年)に77.9%だったのに対し、平成29年(2017年)には69.7%に減少しています。一方、35～44歳については平成19年(2007年)に22%が、平成29年(2017年)には30.1%に増加していることから、晩産化が進んでいます。晩産化が進めば、母親の身体的負担は相対的に大きくなります。さらに、晩産でなくとも、出産・子育てには就労・家事・子育てなどに関する心理的・身体的負担が伴います。

このことから、妊娠中(産前)や出産後の育児支援、出産・子育てに関する情報提供や相談体制の充実など、子育てへの不安を取り除けるような体制を整え、支援を行うことで、安心して出産・子育てを行えるようにします。

施策4 学校・教育環境の充実

子どもが成長し、社会へ羽ばたいていく過程では、義務教育である小学校・中学校時代がとても重要になります。

また、平成30年度(2018年度)に開催した協働会議からは、「子どもが自ら考え、自らの身を守れるよう、生きる力を身に付ける教育が必要」といった意見が出されるなど、「学校教育の充実」が求められています。

このことから、地域・企業・大学などとの連携により、子どもたちが学習に意欲を持ち、学習が楽しいと思えるような学習環境を整備するとともに、これからの時代に必須となる21世紀型スキルや汎用的スキル、非認知スキルなどの育成を目指します。また、地域で子どもたちを育てる取り組みの充実を図ります。

(3)基本目標Ⅲ 安定した雇用を創出する

【基本的方向】

第1期戸田市総合戦略では、働く側の視点で女性や高齢者などの就職支援を行うとともに、雇う側の視点で市内企業の成長支援や従業員の雇用の定着化支援を行ってきました。これにより市内従業者数を増やすことができ、雇用が促進されました。

第2期戸田市総合戦略では、引き続き、働く意欲の高い人への就職を支援するとともに、多様な人材のニーズに応じた環境整備により、市内における雇用の定着化を図ります。また、起業支援や市内企業の魅力の発信や支援を充実させることで市内企業の成長を促し、安定した働き口の確保に努めます。

数値目標		
項目	当初値	目標値
市内事業所の従業者数	64,913人	64,913人以上
市内事業所数	5,252事業所	5,252事業所以上

※当初値は、平成28年(2016年)における経済センサス数値

施策1 市民・市内雇用の促進

令和元年度(2019年度)に実施した戸田市企業現状調査では、「人員が足りていない」と回答した企業は45%に上っています。また、全国的に労働力人口が減少する中、高齢者・障がい者・外国人などの活用が進み、人材の多様性が高まっており、個人の事情に合わせて多様で柔軟な働き方ができる環境整備が求められています。また、「柔軟に働ける制度の導入をしている」と回答した企業は46%、男性の育休取得率0~10%未満の企業は98%となっています。さらに、離職率の上位理由としては「業務内容が合わない」といった雇用のミスマッチが挙げられています。

このことから、公共職業安定所などと連携し、就職に向けた教育や資格取得、受入れ企業と就職希望者のマッチング支援などの取り組みを行います。また、子育て中の人、女性、高齢者、障がい者、外国人を含めた多様な人材が柔軟に働けるよう支援を強化します。

施策2 企業の成長支援

令和元年度(2019年度)に実施した戸田市企業現状調査では、企業が抱える課題として「人材の強化」が最も高く、次いで「収益性向上」「販売力強化」が挙げられています。人に対する課題としては、前述のとおり雇用のミスマッチのほか、高齢化や後継者不足による事業承継の課題も浮き彫りとなりました。また、新製品や新技術開発といった投資に関しては、「資金不足」が約4割と資金面の課題が大きいことが分かります。

このことから、人材不足解消につながる環境整備支援など人に関する支援を進めるとともに、市内企業の業績向上につながる融資など資金に関する支援を進めます。また、市内で事業を新たに起こす、起業支援にも努めます。さらに、企業の魅力発信を強化するとともに、ブランドイメージを向上させるための支援を充実します。

(4)基本目標Ⅳ 生涯にわたってみんなが活躍できる地域をつくる

【基本的方向】

第1期戸田市総合戦略では、人口構造の変化に柔軟に対応ができるまちの基礎・基盤をつくることを目的とし、コミュニティの活性化や地域人材の育成、高齢者の活躍促進などを行ってきました。これにより幸せだと実感している市民の割合を増やすこととしていましたが、横ばいとなっています。

第2期戸田市総合戦略では、引き続き、多世代や新旧住民など多様な主体が集い活動できる拠点を整備し、活動を通じて交流を深められるようにします。また、地域人材の育成を進め、高齢者などが次世代の人材を育成するとともに、若いうちから健康を意識することで、将来にわたり、戸田市らしい活気あるまちが維持できるような基礎をつくります。さらに、協働による地域課題解決ができるような環境を醸成します。

数値目標		
項目	当初値	目標値
健康寿命	男性16.64 女性19.90 ¹⁾	男性16.99 女性20.40
ボランティア・市民活動支援センター登録団体数	171団体 ²⁾	171団体以上

※1) 当初値は、平成30年(2018年)実績値

2) 当初値は、令和2年(2020年)実績値

施策1 コミュニティの活性化

平成30年度(2018年度)に実施した市民意識調査では、「近所付き合いの程度」で積極的に付き合いをしている人は、16.4%であり、地域コミュニティが希薄であることが伺えます。これは、単身世帯や外国人住民の増加、人口流動が激しいことが理由と考えられます。また、近所付き合いが大切であるとする人は約9割となっている一方、ここ1年で地域活動に参加したことがないという人は約6割であり、地域活動に参加してこなかった人に対してのきっかけづくりや、継続して参加できる仕組みや拠点づくりが必要となります。

このことから、多世代、新旧住民、団体同士、近隣住民など様々な主体がつながることのできる場や媒体を活用してもらうことで、人と人がつながることができるよう取り組みます。また、地域活動を担う町会・自治会への参加を促進するとともに、NPOや市民活動団体を含めた団体間の連携を推進します。

施策2 多様な地域人材の活躍・育成

人と人がつながりを持つためには、それを先導する人材、それを支える人材が必要です。しかし、戸田市では町会・自治会の加入率の減少や後継者の不在、担い手の高齢化などにより、地域人材の不足が課題となっています。また、戸田市においては、令和2年(2020年)における高齢化率が約16%と全国的にみても低く、同年において25年連続平均年齢が県内一若いまちですが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和42年(2060年)には高齢化率が約2倍となるなど、急激に高齢化が進むものと予想され、人口構造の変化に対応する取り組みが必要とされています。そのため、まちを良く知っている、まちを良くしたいという人材の発掘、育成を進めるとともに、女性・学生・高齢者・障がい者・外国人など多様な人材が活躍できる環境を整備することが重要です。

このことから、まちづくりを担っていくことができる人材の充実を図るとともに、まちの魅力や価値創造のための活動支援などを行います。

